



JASIリサーチメモ

R6-06号：2024年11月7日

中国におけるロケット軍建設

ーシリーズ②ー東部戦区の組織編成及び部隊所在地について

防衛戦略研究室 防衛事務官 千綿 るり子

一 項 目

1 趣 旨

2 ロケット軍東部戦区の概要

- (1) ロケット軍第61基地の概要
- (2) 過去の対台湾軍事演習について

3 第61基地の組織編成及び部隊所在地

- ① 中国軍の組織編成図
- ③ ロケット軍第61基地(96601部隊)の編成及び所在地
- ⑤ 第612旅団(96712部隊)
- ⑦ 第614旅団(96714部隊)
- ⑨ 第616旅団(96716部隊)
- ⑪ 訓練連隊(96811部隊)
- ⑬ 作戦保障連隊(96813部隊)
- ⑮ 技術勤務旅団(96815部隊)
- ⑰ 無人機連隊(96816部隊)

② ロケット軍部隊の編成及び所在地

- ④ 第611旅団(96711部隊)
- ⑥ 第613旅団(96713部隊)
- ⑧ 第615旅団(96715部隊)
- ⑩ 第617旅団(96717部隊)
- ⑫ 通信連隊(96812部隊)
- ⑭ 総合保障連隊(96814部隊)
- ⑯ 装検連隊(96031部隊)

4 評 価

1 趣 旨

本資料は、「中国におけるロケット軍建設」に関して、シリーズ①「ロケット軍の戦略」に続き、東部戦区の組織編成及び部隊所在地についてまとめたものである。作成に際しては、公開情報(*1)により旅団レベルまではその所在地が確認できたが、大隊レベル以下の細部編成についてはその確認が難しいことから、主に米空軍の中国航空宇宙研究所(CASI)発表の「人民解放軍ロケット軍の組織」(*2)等に従いまとめた。

この「中国におけるロケット軍建設」の研究は、続いて③西部戦区、④南部戦区、⑤北部戦区及び⑥中部戦区を概観した上で宇宙軍編成の可能性についてその細部分析を試みる。

2 ロケット軍東部戦区の概要

(1) ロケット軍第61基地の概要

中国ロケット軍は中国全土に9か所の基地を有しており(*3)、その内、東部戦区(基本的に江蘇省、上海市、浙江省、安徽省、江西省及び福建省に相当)には第61基地が所在しており、その位置関係から、主として台湾対処を担当していると推定される。ロケット軍におけるこの「基地」とは、陸軍で言えば集団軍に相当するものであり、作戦運用に際しての指揮系統は基本的に「中央軍事委員会－基地－旅団－大隊」となる(*4)。このことは、ロケット軍に関しては、その運用規模や発射時機は中央軍事委員会により直接指導されることになっており(*5)、陸・海・空軍とは異なり、各戦区にロケット軍の司令部は設置されていない状況からも読み取れる。

ただし、2022年8月や2024年5月の対台湾演習においては、東部戦区司令部の下でロケット軍東部戦区の第61基地が演習に参加していた(*6)模様であり、中央軍事委員会から戦区司令部に前もって権限が委譲されていたとも考えられ、引き続き関連動向が注目される。

*1: 温約瑟「中国人民解放军基地及び施設」https://umap.openstreetmap.fr/en/map/by_77487#11/19.7751/110.7003 (以下、温約瑟資料と略する。) ; 陳振国、杜建明「中共火箭军战术弹道导弹对我军事之威胁与因应对策 (中国共産党ロケット軍戦術弾道ミサイルの台湾軍に対する脅威と対策)」『海軍學術隔月刊』第51巻第6期 ; 陳振国「浅析中共『火箭军』发展与运用(中国共産党『ロケット軍』の発展と運用に関する分析)」『海軍學術隔月刊』第55巻第1期 ; Ma Xiu “PLA ROCKET FORCE ORGANIZATION” China Aerospace Studies Institute, August 5, 2024 (以下、CASIレポートと略する。)

*2: CASIレポート

*3: 『環球時報』2015年9月1日。

*4: 『海軍學術隔月刊』第51巻第6期

*5: 軍事科学院『戰略学』(2013年版) 229頁等

*6: 『東部戦区Weibo』2022年8月4日、2024年5月23日。

この第61基地について簡単に振り返ると、1965年8月、121部隊(第61基地の前身組織となる第52基地の指揮部のコードネーム)が、ミサイル陣地建設のために安徽省石台县広陽鎮に進駐したことに始まる。そして翌年1966年6月、正式に「303工程指揮部」として発足し、第2砲兵の正式な編成(1967年7月1日)を経て1968年5月25日、「第52基地」として編成され(*7)、2015年末のロケット軍編成に伴い第61基地へと改称された。

この第61基地は、その司令部が安徽省黄山市にあり、その隷下に少なくとも第611旅団から第617旅団まで7個旅団を有する(*8)。具体的には、第611旅団(安徽省青陽市)、第612旅団(江西省樂平市)、第613旅団(江西省上饒市)、第614旅団(福建省永安市)、第615旅団(広東省梅州市)、第616旅団(江西省贛州市)及び第617旅団(浙江省金華市)があり、第615旅団は福建省寄りの広東省に所在することを指摘できる。

この第61基地は従来、2個中距離核ミサイル旅団及び5個通常ミサイル旅団を運用してきたが、近年換装が進められている模様である(*9)。

第61基地の特徴としては、第2砲兵における初の通常ミサイル部隊がこの基地において編成されたことをまず挙げられる。1993年、江西省上饒市において、現在の第613旅団(96713部隊)の前身組織となる通常ミサイル第1旅団が編成されており、同旅団は編成から3年後に全軍緊急対処機動部隊に組み込まれ、2011年7月には中国北西地方の砂漠まで機動して編成以来100発目となるミサイルを発射させ目標に命中させており、戦略ミサイル部隊初の「百発百中旅団」の異名を有した(*10)。

もう一つの特徴としては、無人機連隊を有することが挙げられる。浙江省金華市東陽市の飛行場に第61基地無人機連隊の司令部があり、無人機「TB-001」(最大航続距離:6000km)を保有するとみられる。このTB-001は2022年7月、台湾による軍事演習「漢光38号」の初日25日、台湾本島を一周する動きを見せており(*11)、以降、台湾周辺海域を始め東シナ海での活動が確認されている。この無人機の任務としては、情報収集・警戒監視・偵察・ターゲティングのほか、攻撃ターゲットの撮影、その位置情報のリアルタイム伝送、弾道ミサイル着弾の映像伝送等の任務を担っていた可能性も指摘されている(*12)。

以上、第61基地の特徴として2点を挙げたが、最大の特徴は台湾対処を担う点であろう。次の項では、対台湾軍事演習について概観する。

*7:「永遠の第2砲兵 中国人民解放軍ロケット軍編成に際して」『歴史資料網』2022年5月19日。

*8: 第618旅団については、第618旅団が存在することまでは確認できるが、細部は不明である。

*9: CASIレポート57頁。

*10:『環球時報』2020年8月1日。『中国青年報』2012年6月10日。

*11: 2022年7月25日、無人機「TB-001」1機が、東シナ海方面から飛来し、沖縄本島と宮古島の間を通過して石垣島、与那国島を経て台湾本島東部海域に飛来し、当該海域を数時間にわたり周回飛行した後、バシー海峡を経て台湾海峡中間線を北上し、上海方面に帰投したとされる。『統合幕僚監部 報道発表資料』2022年7月25日、『上観新聞』2022年7月27日。

*12:相田守輝「中国の無人機TB-001が弾道ミサイルの着弾に関与していた可能性について」『NIDSコメンタリー』（第239号2022年10月4日）

(2) 過去の対台湾軍事演習について

中国軍は2016年2月1日、7大軍区から5大戦区への改編を発表したが、「戦区」とは従来、恒常的に設定され機能するものではなく、有事の際、迅速に統合作戦を実施し得ることを目的としており、実戦を念頭に置いた兵力運用の仕組作りが進行していることを意味していた(*13)といわれる。そして実際に1995年から1996年にかけて「南京戦区」、「広州戦区」及び「東南戦区」が設置されてきた経緯がある(*14)。「南京戦区」は1995年10月及び11月、福建省で大規模上陸演習が実施された際に設置されており、陸・海・空軍及び第2砲兵に跨る補給システムの一本化に成功している(*15)。「東南戦区」は、1996年3月12日、全国人民代表大会の人民解放軍全体会議において「東南戦区」における補給準備態勢に言及がなされ、その際に設置が明らかになった(*16)。「広州戦区」は1996年10月17日から渡海上陸演習が実施された際に設置された(*17)。

これら戦区の設定はいずれも当時の台湾情勢に関連したものであり、南京戦区の設定は、当時の李登輝総統が1995年6月、私人の身分で米国のコーネル大学を訪問し「二つの中国」を宣伝したことにまで遡るだろう。翌月7月18日、中国国営通信『新華社』は7月21日から28日の間、台湾の基隆から56kmの彭家嶼海域で軍事演習「神剣-95」を実施すると発表し、21日、22日及び24日、江西省上饒の鉛山から「DF-15」が2発ずつ発射され、台湾富貴角北方70カイリの目標に命中した(参照:8頁)(*18)。このミサイル発射に続き同年10月に「南京戦区」が設定され、大規模上陸演習が実施されたとみられる。中国軍は翌年、台湾総統選前の1996年3月、「聯合96-1」軍事演習を実施しており、この間、3月8日に永安及び南平からそれぞれ「DF-15」を2発ずつ発射しており、この内3発が高雄の外海に命中し、1発は基隆外海の目標海域に命中した(*19)。同時期3月の「東南戦区」の設定は、この「聯合96-1」軍事演習に伴うものであり、戦区単位で補給準備態勢が上げられていたと考えられ、同年10月に「広州戦区」を設定して前回同様に上陸演習を実施したのであろう。

以上、過去に設定された戦区は、いずれも台湾情勢に絡み設定されたものであり、その意味でも第61基地の有する責任の重さが窺えるだろう。2016年2月、中国軍は7大軍区から5大戦区へと改編されたが、「戦区」が従来有する意味を踏まえれば、この改編は中国軍による統合作戦遂行のための態勢整備が一気に進み、統合化へ向けて大きく踏み出したことを意味しており、台湾を始めアジア太平洋地域に対する影響力の強化を視野に入れた動きと考えられる。

*13:宇佐美暁『中国の軍事戦略 中台関係と東アジアの安全保障』東洋経済新聞社、1997年、1～3頁。

*14:上記に同じ

*15:上記13において『解放軍報』(1996年1月8日)を資料源とした旨が記載されている。

*16:上記13において『文匯報』(1996年3月13日)を資料源とした旨が記載されている。

*17:上記13において『解放軍報』(1996年10月24日)を資料源とした旨が記載されている。

*18:『新華澳報』2020年6月20日。

*19:上記に同じ

特に近年は、対台湾演習が大規模に実施されており、2022年8月には、過去25年間では最も高位となる米国下院議長のペロシ氏が台湾を訪問したことを受け大規模な対台湾演習が実施されており、この時は弾道ミサイル4発が台湾上空を通過するほどのものであった(*20)。この演習には、公開情報によれば、第613旅団及び第617旅団の参加が確認された。

また、2024年10月17日、習近平主席がロケット軍を視察したが、それを報じる映像(*21)から、視察先は第61基地隷下の第611旅団であったとみられ、映像からはさらに核・通常弾兼備の「DF-26」(IRBM)も確認された。この視察に先立ち、中国軍東部戦区が10月14日、台湾周辺海域において対台湾演習「聯合利剣-2024B」を実施しており、演習翌日の10月15日、習主席が福建省の東山島を視察していた。この島は、中国軍が従来、台湾着上陸演習の訓練場として使用してきた場所であり(*22)、東山島に続く第61基地の視察は、米国を含め台湾を強くけん制するものと捉えられた。

以上の経緯を踏まえ、以下、第61基地の組織編成及び部隊所在地についてみていく。

3 第61基地の組織編成及び部隊所在地

以下、6頁以降の①から⑰に示すとおり。

4 評価

ロケット軍第61基地は、その位置関係から台湾対処を主任務にしていると考えられる。具体的に見ていくと、単純にミサイルの射程から見れば、第611旅団及び第617旅団は、射程4,000～5,000kmのDF-26(核・通常弾)を配備しているとみられ、グアムに向いていることが考えられる。第612旅団及び第615旅団は射程500kmのDF-11(通常弾)、第613旅団は射程600kmのDF-15B(通常弾)をそれぞれ装備しているとみられ、台湾向けと考えられる。第614旅団は射程2,500kmのDF-17(通常弾)を装備しているとみられ、日本向けであるとも考えられる。第615旅団は、DF-15であれば台湾、DF-17であれば日本に向いていると考えられる。

ただし、車両で大陸内陸部へ機動すれば、日本やグアム等向けのみサイルでも台湾等への攻撃が可能になるだろう。

また、弾頭の種類から見れば、台湾や日本には通常弾頭、米国には核弾頭も向けられているとの見方もできる。

* 20:『聯合早報』2023年4月9日。

* 21:『中国国防部H.P.』2024年10月19日、http://www.mod.gov.cn/gfbw/gc/xjp/2024_246930/16346330.html

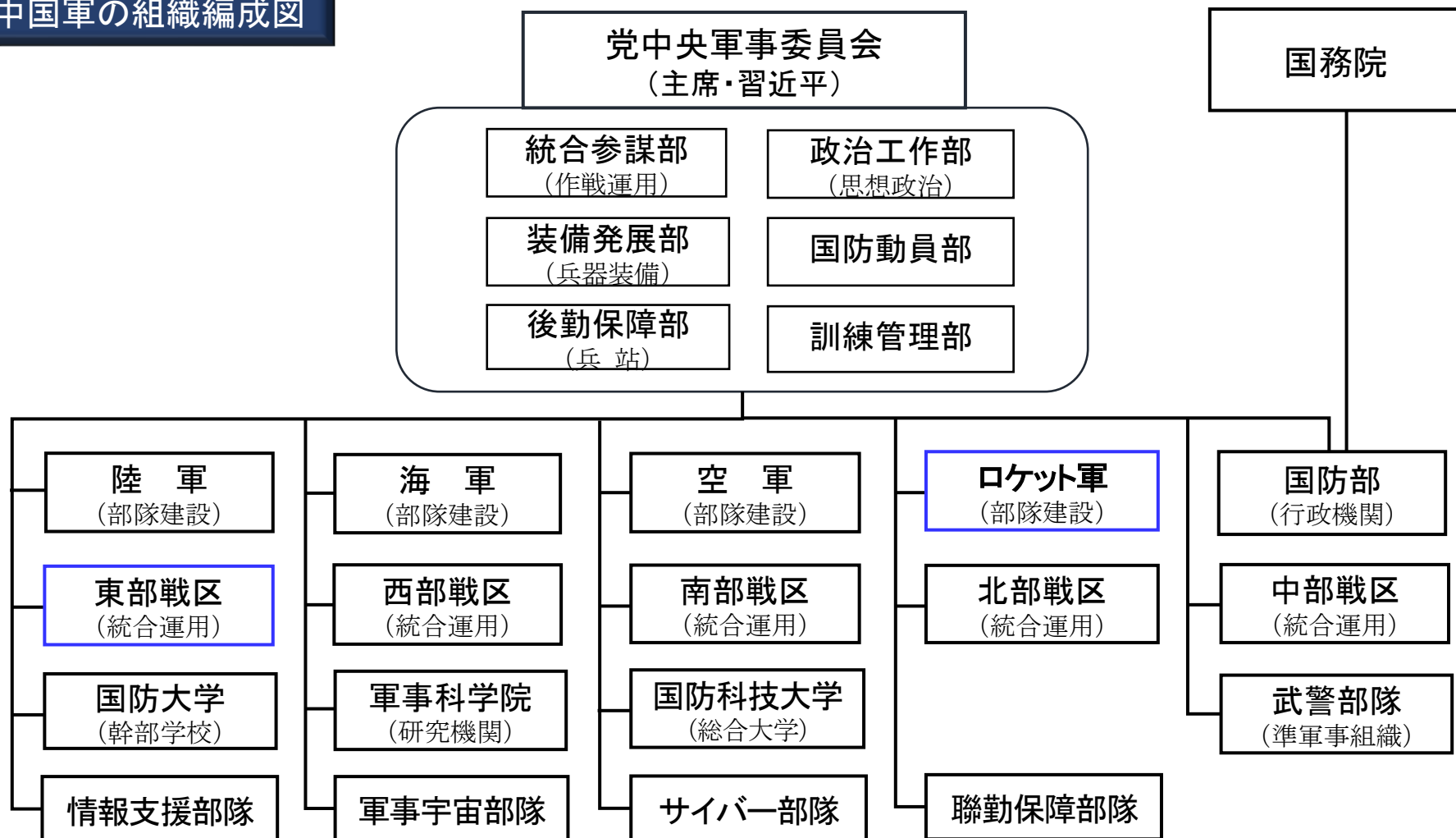
* 22:『聯合新聞網』2014年10月16日。

【研究者紹介】(防衛戦略研究室員)

博士(安全保障)。2015年3月、拓殖大学国際協力学科安全保障専攻博士課程修了、博士論文「中国人民 武装警察部隊に関する研究－武警部隊と解放軍の関係と将来像－」。専門は中国の準軍事組織(中国人民武装警察部隊、海警、海上民兵等)や中国の宇宙開発等。著書(共著)に2008年 茅原郁夫「中国の軍事力－2020年の将来予測－」蒼蒼社。

本リサーチメモにおける見解は、航空自衛隊幹部学校航空研究センターにおける研究の一環として発表する執筆者個人のものであり、防衛省又は航空自衛隊の見解を表すものではありません。

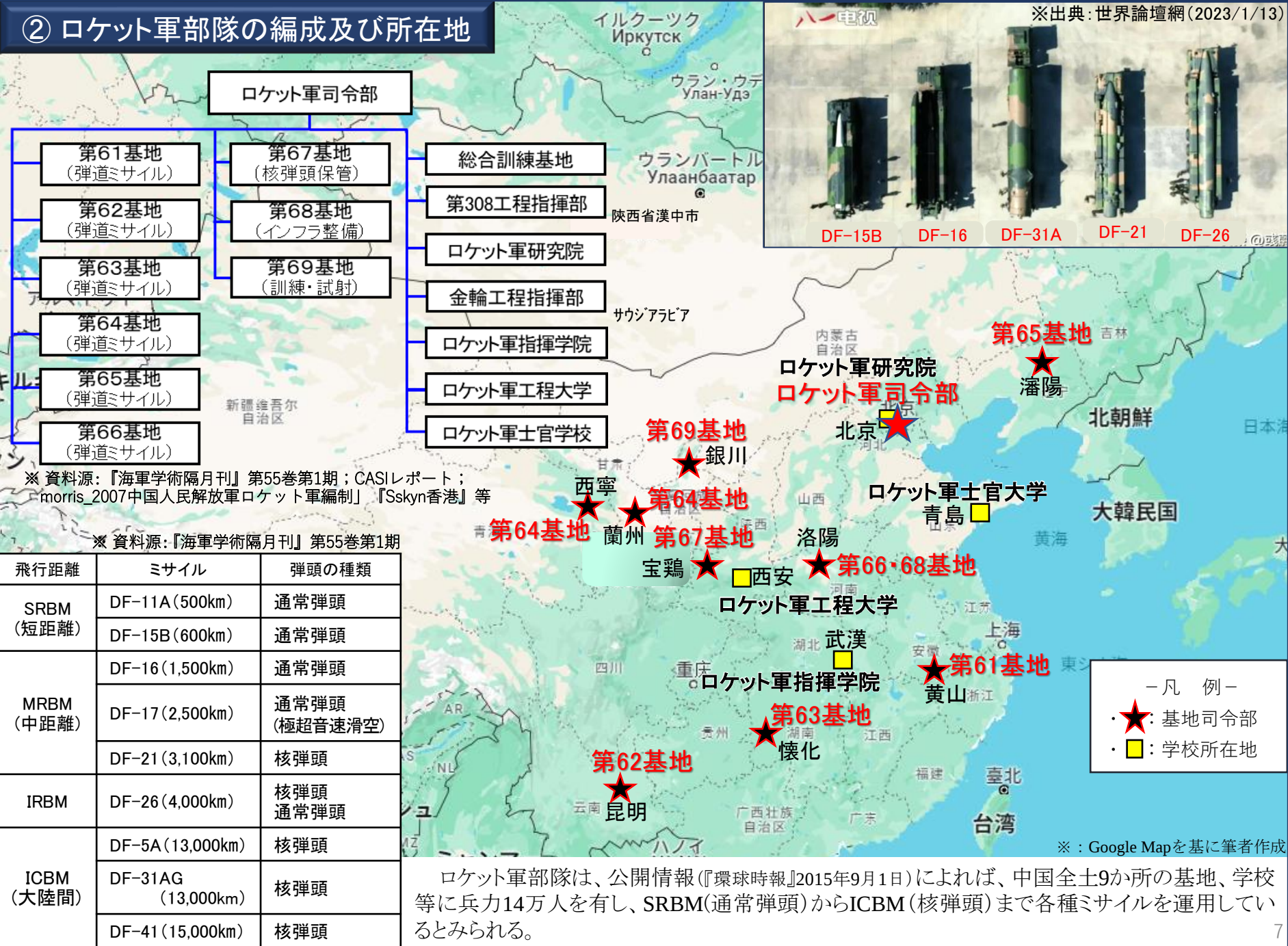
① 中国軍の組織編成図



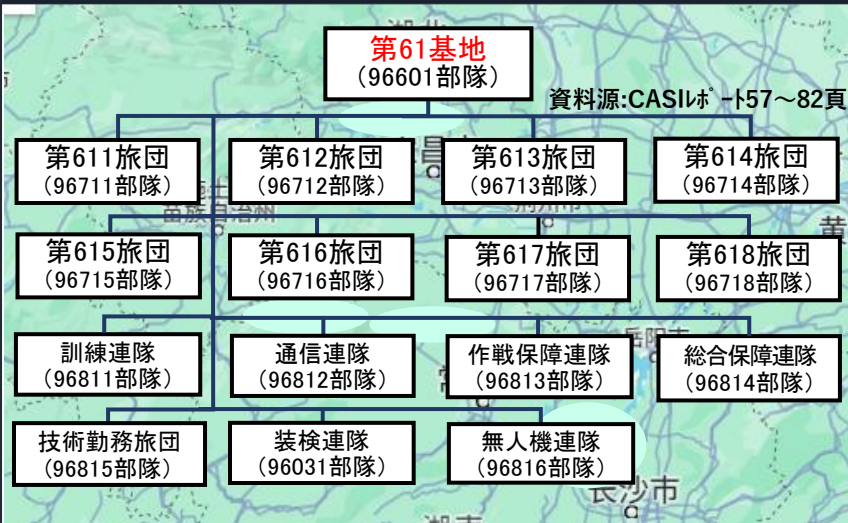
中国人民解放軍全体の組織編成については、中央軍事委員会(主席:習近平)の下に、各軍種(陸・海・空・ロケット)、各戦区(東部・西部・南部・北部・中部)等が同じ並びで置かれ、それぞれが中央軍事委員会から指揮・指導を受ける体制がとられている。

この内、中国において核兵器やミサイルの運用を担当してきた第2砲兵は2015年末、第2砲兵からロケット軍へと改称され、陸・海・空軍と並ぶ軍種へ格上げされている。

② ロケット軍部隊の編成及び所在地



③ ロケット軍第61基地(96601部隊)の編成及び所在地



中国軍の東部戦区(江蘇・上海・浙江・安徽・江西・福建)には第61基地が所在しており、その位置関係から、台湾対処を主任務にしているとみられる。

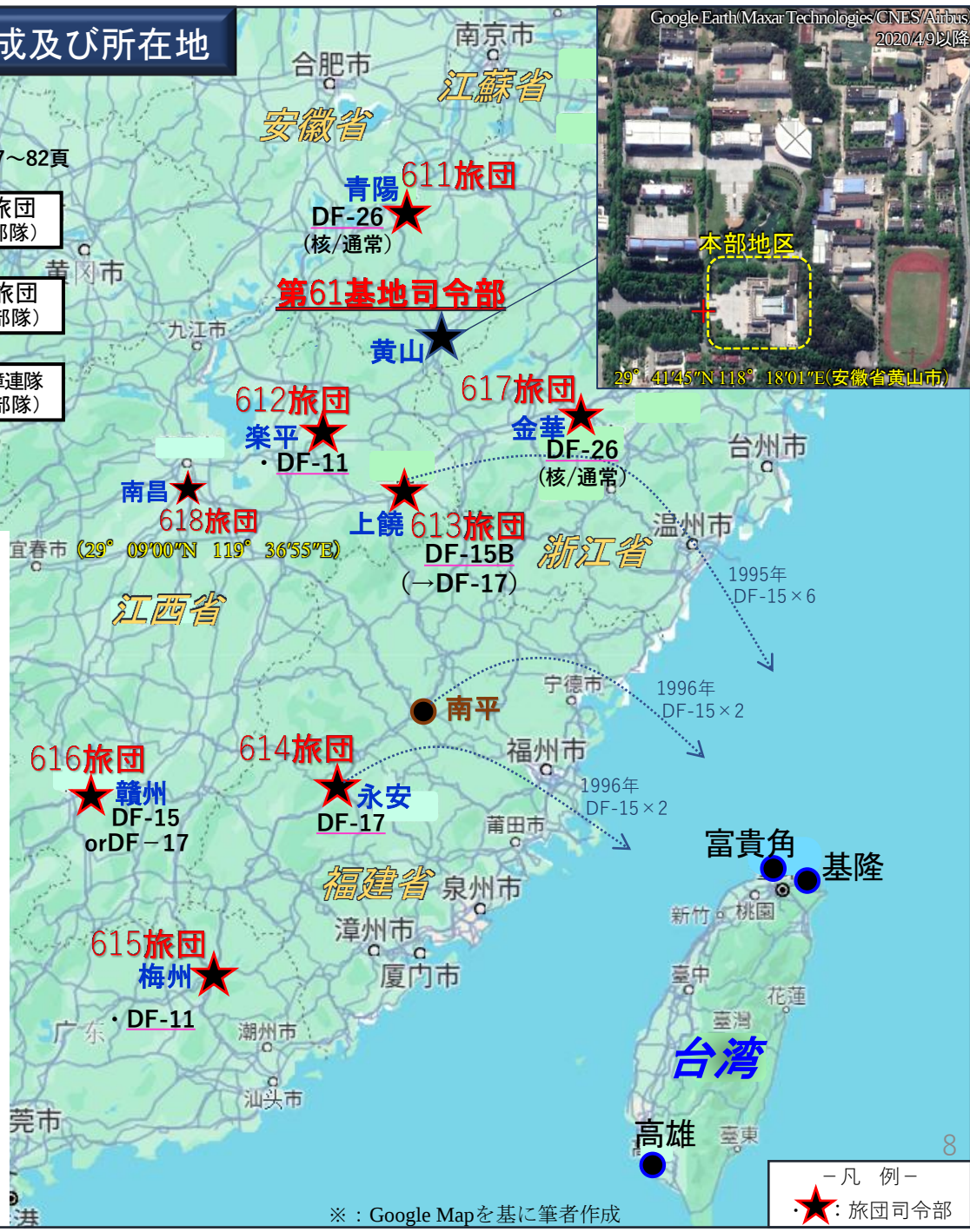
この61基地は、隷下に第611旅団から第618旅団まで8個旅団を有するが、第618旅団の細部は不明であり、新編部隊である可能性も考えられる。

従来、2個核ミサイル旅団、5個通常ミサイル旅団を運用してきたとみられるが、現在は換装途上にあるとも言われる。

また、ロケット軍における旅団は、基本的に6個発射大隊、通信大隊、技術大隊、作戦保障大隊、総合保障大隊等から構成される。

TEL(ミサイル発射車両)については、大隊で6輛、旅団で計36輛を有し、TEL1輛にミサイル4基を有する(『海軍学術隔月刊』第51巻第6期)とされる。

各旅団等の細部については、次頁以降に示すとおりである。



④ 第611旅団(96711部隊)

旧807旅団(96161部隊)

第611旅団

資料源: CASIレポート61頁

発射第1大隊

通信大隊

技術大隊

作戦保障大隊

総合防護中隊

総合保障大隊

新兵大隊

611旅団

★青陽

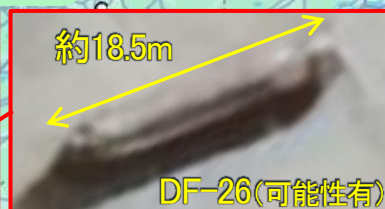
⊗石台

★黄山

第61基地司令部

★金華

—凡 例—
 ★: 旅団司令部



約500m

青陽陣地/訓練場

DF-26(核・通常弾頭)

第611旅団司令部

車庫区

兵舎区

本部

Google Earth(CNES/Airbus)

2021/11/29以降

30° 41'20"N 117° 54'06"E

(安徽省池州市青陽縣新河鎮)

第611旅団(96711部隊) 司令部は、公開情報(温約瑟資料;「中国人民解放軍96711部隊某單位音響システム調達プロジェクト二次公開入札募集公告」『音頻応用』2022/10/19 <https://audioapp.cn/m/audio/4934.html>)から、安徽省池州市青陽縣新河鎮に所在することを確認できる。

この司令部からおよそ500m北西に陣地又は訓練場と見られる施設が確認され、そこには地下格納庫と見られる施設の入口のほか、長さ約18.5mのTELとみられる車両を確認できる。その長さからDF-26(核・通常弾兼備)のTELの可能性が考えられたところ、習近平主席が2024年10月17日、同旅団を視察したとみられ、それを報じる映像において少なくともDF-26TEL×22基が確認された。従って、同旅団はDF-26を運用していると言えよう。

また、映像には、習主席が「DF-21」の模型を見る場面が流れたことから、同旅団は以前、DF-21(核弾頭)を装備していたとも考えられる。

公開情報(温約瑟資料)によれば、青陽訓練場のほか、旅団司令部の南方の池州市石台県にも陣地が確認される。

⑤ 第612旅団(96712部隊)

旧811旅団(96163部隊)

日市

第612旅団

資料源: CASIレポート62~63頁

発射第1大隊

通信大隊

技術大隊

作戦保障大隊

総合保障大隊

x6

★青陽

第61基地司令部

★黄山

景德鎮

612旅団

★樂平

★金華

樂平訓練基地:

29° 03'14"N-117° 20'30"E

★上饒

温州市

台州市

宁波市

上海市

杭州市

无锡市

常州市

南京市

湖北省

宜昌市

荆州市

黄冈市

九江市

南昌市

直塢陣地/訓練場

DF-11(通常弾)

建設中

Google Earth
(Maxar Technologies)
2022/4/14

直塢

約111m

車庫

29° 19'21"N-117° 17'13"E
(景德鎮市直塢)



訓練の一端

出典: 「CCTV13」2021/2/9



DF-11TEL

車庫

千里机动 只为“东风快递”使命必达

28° 58'43"N-117° 07'14"E
(江西省景德鎮市樂平市汨陽街道)

Google Earth (Airbus)
2023/10/30

出典: 「CCTV13」2021/2/9

DF-11TEL



北京軍事博物館展示の
DF-11TEL



資料源: Wikipedia

第612旅団(96712部隊) 司令部は、公開情報(「6691工程兵舎施設第2弾プロジェクト施工入札募集公告」『江西省入札募集・入札協会』2018/9/12 <https://jxtb.org.cn/gongshigg/zhaobiaogg/html.php?c-10793.html>; 温約瑟資料)から、江西省景德鎮市樂平市汨陽街道に所在することを確認できる。

また、上記情報から、司令部北方の景德鎮市直塢に陣地又は訓練地と見られる施設を確認できる。この施設の車庫が、2021年2月9日に中国国営放送「CCTV13」で流されたロケット軍の訓練状況の映像に出てくる車庫と合致するとみられ、そこではDF-11(通常弾)のTELが確認されることから、第612旅団は、DF-11を運用しているとみられる。

また、公開情報(温約瑟資料)によれば、直塢陣地のほか、旅団司令部の北東に訓練基地が確認され、同基地も隷下に有するとみられる。



第612旅団司令部

鉄道の線路が直結

兵舎区

本部

車庫区

中共高家山社区
支部委员会

⑥ 第613旅団(96713部隊)(1/2)

襄阳市

旧815旅団(96165部隊)

Google Earth(CNES/Airbus)
2020/11/19以降

寧徳基地

- 凡 例 -
★: 旅団司令部

出典:「CCTV7」2022/8/4

DF-15B

火箭軍部隊
毎域実施常導火力

★ 対台湾演習 出典:「CCTV7」2022/8/4

央视军事

8月4日下午 东部战区火箭軍部隊
对台岛东部外海 预定海域实施常導火力突击
全部精准命中目标27° 00'46"N 119° 44'14"E
(福建省寧徳市)

第613旅団司令部

兵舎区

本部

車庫区

撮像日不明
Google Earth(Airbus/
Maxar Technologies)

28° 28'26"N 117° 53'44"E (江西省上饒市広信区羅橋)

資料源:CASILポ-ト64頁

第613旅団

発射第1大隊

通信大隊

技術第1大隊

作戦保障大隊

総合保障大隊

安徽×6

青陽

DF-11

黄山

第61基地司令部

金華

樂平

上饒

613旅団

江山基地: 28° 31'39"N
118° 31'01"E

寧徳基地

26° 42'37"N
120° 02'16"E

烏嶼基地:

第613旅団(96713部隊) 司令部は、公開情報(「96713部隊兵舎保障プロジェクト入札募集通意」『中国電力安装工程網』2019/7/26 <https://chpie.com/g-dianliangzhuang-9976166904-34415871.html>) から、江西省上饒市広信区羅橋に所在することを確認できる。

同旅団は、1993年に初の通常ミサイル部隊「通常ミサイル第1旅団」として編成された部隊であり(『環球時報』2020/8/1)、かつて「百発百中」の異名を有したが、現在はいつでも戦える「全旅団突撃」とも称する(『中国軍網』2017/5/26)。隷下に、江山基地(浙江省衢州市江山市)、寧徳基地(福建省寧徳市)、烏嶼基地(寧徳市霞浦県)を有する(溫約瑟資料)とみられる。

この内、寧徳基地は、2022年8月4日に中国国営放送「CCTV」で流された対台湾演習の状況を伝える映像に出てくる基地と合致するとみられ、そこで打ち上げられていたミサイルはDF-15B(通常弾)と見られることから、第613旅団はDF-15Bを運用しているとみられる。

また、公開情報(「新華社」2019/10/5)によれば、2019年10月1日の軍事パレードの「DF-17通常ミサイル梯隊」に第613旅団から要員が派遣されていたことから、同旅団がDF-17への換装の候補となっていたことが考えられる。

⑦ 第614旅団(96714部隊)

旧817旅団(96167部隊)

襄阳市

第614旅団

発射第1大隊

通信大隊

総合保障大隊

作戦保障大隊

技術大隊

資料源 : CASIレポート66頁

× 6

DF-17TEL(可能性有)

約17m

2019年軍事パレードで初披露の
DF-17

※ 出典 : 「新華網」2019/10/1

第614旅団司令部

Google Earth
(CNES/Airbus)
2022/3/2以降

兵舎区

本部

26° 03'32"N 117° 18'54"E (福建省三明市永安市大湖坑源村400号)

第614旅団(96714部隊)司令部は、公開情報(「96714部隊冷链調達・据付入札募集広告」『荣城市先進技術応用服務台』2019/2/15 <http://124.70.8.119:6998/sbqccg/16023.jhtml>)から、福建省三明市永安市大湖坑源村400号に所在することを確認できる。

この司令部の車庫区において、Google Earthから、長さ約17mのTELとみられる車両を確認できる。その長さから、DF-17(極超音速滑空ミサイル)のTELである可能性があり、同旅団はDF-17を運用していることが考えられる。

DF-17は、2019年10月1日の軍事パレードで初めて「新型通常ミサイル」として公開され、「DF-17梯隊」は2個通常ミサイル旅団から構成されたと紹介されている(『新華社』2019/10/1)。

なお、CASIレポートによれば、同旅団は1997年に設立されており、DF-11を装備した初の旅団である。2018年8月以降、DF-11Aから更にDF-17へ換装中とされる。

614旅団

★ 永安

福建

★ 赣州

★ 梅州

福州市

莆田市

泉州市

漳州市

厦门市

广东省

潮州市

汕头市

东莞市

香港

- 凡 例 -

★ : 旅団司令部

臺北

新竹・桃園

臺中

花蓮

臺灣

臺東

高雄

⑧ 第615旅団(96715部隊)

出典: 国防部H.P.
(2024/5/24)DF-11
(推定)

DF-11TEL

Wikipedia

発射第1大隊

第615旅団

通信大隊

技術第1大隊

作戦保障大隊

総合保障大隊

測地隊

勤務中隊

資料源: CASIレポート67~68頁

旧818旅団(96169部隊)

第615旅団(96715部隊)司令部は、公開情報(「96715部隊食堂改築工事入札募集広告」『璫博市産業融合発展服务平台』2019/12/11 <http://8.131.109.91:6198/gl0xlbzjs/38010.jhtml>) から、広東省梅州市梅县区南口镇に所在することを確認できる。

この司令部の車庫区は、2023年4月9日に「中国国防部H.P.」で流された対台湾演習の状況を伝える映像に出てくる場所と合致しており、そこではDF-11(通常弾)のTELを確認できることから、同旅団はDF-11を運用しているとみられる。

さらに同旅団は、公開情報(温約瑟資料)から、司令部西方に石正基地(梅州市平遠県)を有するとみられる。

また、同旅団は、公開情報(「中国国防部H.P.」2023/4/9; 2024/5/24)から、2023年と2024年の対台湾演習に参加していた模様である。

なお、CASIレポートによれば、同旅団は2,000年代に設立されており、DF-11を2番目に装備した部隊とされる。また、温約瑟によれば、DF-11Aから更にDF-17へ換装中であることが考えられる。

出典:「国防部H.P.」2024/5/24

対台湾演習
(2024年5月)対台湾演習
(2023年4月)

出典:「国防部H.P.」2023/4/9

DF-11(推定)

24° 16'58"N
115° 58'15"E
(広東省梅州市)

車庫区

兵舎区

本部

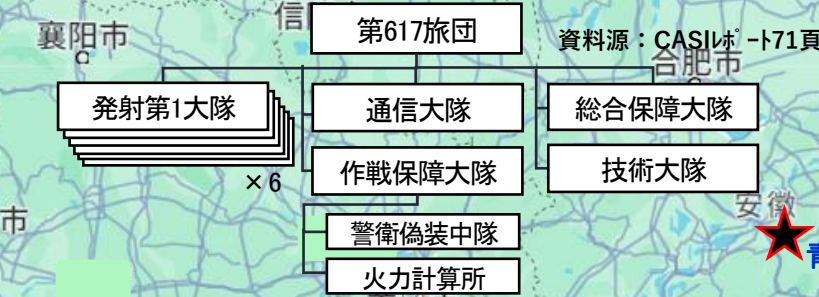
2021/2/8以降

Google Earth (Maxar Technologies)

第615旅団司令部



⑩ 第617旅団(96717部隊)



対台湾演習(出典:CCTV13 2022/8/4)



出典:『CCTV7』(報道日不明)



対台湾演習(出典:『CCTV13』2022/8/4)



第617旅団司令部

29° 09'00"N
119° 36'55"E
(浙江省金華市)

兵舎区

本部

車庫区

Google Earth(Landsat/Copernicus) 2022/4/21

Google Earth(Landsat/Copernicus) 2022/4/21

第617旅団(96711部隊) 司令部は、公開情報(「金華婺城区特殊設備広告停止名簿」『浙江省人民政府H.P.』2024/10/11閲覧 <http://0926c98cb644b2fae19ed171613e6ab> 2)から、浙江省金華市婺城区羅店鎮北山路に所在することを確認できる。

この司令部の車庫区は、CCTV7で流された訓練状況を伝える映像(報道日不明)に出てくる場所と合致しており、そこではDF-26(核・通常弾兼備)のTELを確認できることから、同旅団はDF-26を運用しているとみられる。

また、2022年8月4日にCCTV13で流された対台湾演習の状況を伝える映像においても、この駐屯地からDF-26のTELが出ていく状況が確認されることから、やはりDF-26を運用していると言えよう。

⑪ 訓練連隊(96811部隊)

旧96171部隊

96811部隊

不明

28° 40'09"N 118° 30'53"E
(浙江省衢州市江山市賀村)

車庫区

訓練連隊司令部

兵舎区

本部

2022/9/27以降
Google Earth (Maxar Technologies)

96811部隊で訓練を終え
新たな任地へ向かう新兵

資料源及び出典:「東部戦区Weibo」2019/12/26

訓練連隊(96811部隊)司令部は、公開情報(温約瑟資料;CASIレポート)から、浙江省衢州市江山市賀村に所在することを確認できる。

公開情報(「東部戦区Weibo」2019/12/26)から、新兵の訓練や短期間の課程を担当しているとみられる。

⑫ 通信連隊(96812部隊)

旧96175部隊

96812部隊

通信第1大隊

資料源: CASIレポート75頁

通信連隊司令部

本部

Google Earth(CNES/Airbus) 2017/3/2以降
29° 41'24"N 118° 18'49"E (安徽省黄山市屯溪区)

通信連隊(96812部隊)司令部は、公開情報(「96812部隊 保障処臨時受付棟改修二期工事入札募集広告」『榮成市先進技術応用服務平台』2019/8/23 <http://124.70.8.119:6998/gl0xlbzjs/41308.jhtml>) から、安徽省黄山市屯溪区上洽村10号に所在することを確認できる。通信部隊であることから、基地と各旅団間の通信を始め各部隊間の通信保障を担当しているとみられる。

また、96812部隊は、ロケット軍工程大学と共著で「信息对抗技術」(著者:張羽潔、潘蕾、王国營、李婷、2023年第2期1-10)と題する書籍を出版しており、その内容は、ロシア・ウクライナ紛争におけるスターリンクの役割や低軌道の通信衛星に着目し、その地上サイトのアンテナ技術について分析したものであり、低軌道通信衛星やその地上局に関心を寄せている点が注目される。

※: Google Mapを基に筆者作成

⑬ 作戦保障連隊(96813部隊)

資料源: CASILポ-ト76頁

96813部隊

旧96177部隊

气象台

警衛防化大隊

測地隊

衛星位置誘導所

工兵中隊

野外駐屯訓練



Google Earth (Maxar Technologies) 2020/11/30以降
 29° 47'09"N 118° 11'08"E
 (安徽省黄山市休寧県海陽鎮)



中国軍網 風向き調査訓練



土地の高低観測訓練



天文測量訓練



作戦保障連隊(96813部隊)司令部は、公開情報(温約瑟資料)から、安徽省黄山市休寧県海陽鎮に所在するとみられる。

作戦保障連隊の編成前は、各保障分隊はそれぞれ各基地の直属部隊であり、縦割りの編成であったが、作戦保障連隊を新たに編成したことにより、縦割りの弊害を突破できたという。さらに、突発事態対処、道路上の障害物除去、短期の天気予報、毒ガス探知防護をそれぞれ担う部隊を戦役保障グループ、坑道施工、気候分析、放射能汚染除去、土地測量をそれぞれ担う部隊を戦略保障グループとして訓練を実施するなどしており(『中国軍網』2016/10/21)、作戦保障連隊とは、これら各機能を統一的に運用するために編成された部隊と考えられる。

この作戦保障連隊と総合保障連隊(次頁)の違いは、作戦保障連隊の場合、その編成から、主にミサイルを発射するための支援に特化していることが考えられる。

公開情報(『天文学報』第63巻第3期 2022年5月)によれば、96813部隊所属の2名が、北京衛星誘導センター所属の1名と共同で「北斗3号」に関する論文を発表しており、この2名は、衛星位置誘導所に所属していることが考えられる。

⑭ 総合保障連隊(96814部隊)

総合保障連隊司令部

ミサイル部品
補給庫地区

本部

28° 27'48"N

117° 53'04"E

(上饒市広信区羅橋街道)

Google Earth (Airbus/Maxar Technologies) 2022/04/11

車両緊急修理訓練



出典:「中国軍網」2020/10/13

負傷者の応急処置訓練



出典:「中国軍網」2020/10/13



第61基地司令部

黄山

金華

上饒
羅橋
下山村
墩頭村

ミサイル器材倉庫(旧96176部隊):

28° 29'09"N 117° 55'30"E

ミサイル器材格納庫

約38m

約70m

28° 23'23"N 117° 54'48"E (上饒市広信区墩頭村)

Google Earth (Maxar Technologies) 2022/10/19以降

総合保障連隊(96814部隊)は、公開情報(「96814部隊のSR01工程公開入札募集変更広告」『瑞博市産業融合発展服務平台』2019/5/15 <http://8.131.109.91:6198/gl0xlbzjs/34762.jhtml>)から、江西省上饒市広信区羅橋街道に所在することが確認できる。

公開情報(Redtsai「ロケット軍」https://redtsai.blogspot.com/2019/12/blog-post_91.html)によれば、上饒市広信区下山村と同区墩頭村にミサイル器材倉庫等を有する。

総合保障連隊は、防護服を着用しての車両緊急修理や負傷者の応急処置、車両への燃料補給等の訓練を行っており(『中国軍網』2020/10/13)、ミサイル器材の保管を含め、幅広い後方支援任務を担っているとみられる。

⑮ 技術勤務旅団 (96815部隊)

旧96172部隊

96815部隊

道路輸送大隊

鉄道護送大隊

技術第1大隊

資料源：CASILポ 78～79頁

第612旅団の総合保障分隊、技術勤務旅団 (96815部隊) の道路鉄道輸送分隊等も参加して、演習を実施



技術勤務旅団 (96815部隊) は、公開情報 (「96815部隊景德鎮兵舎會議室及び文化活動センターLED調達入札公募広告」『華夏城項目管理有限公司』2019/11/11 <https://www.sxhx2001.com/2019/11/11/14289.html>) から、江西省景德鎮市珠山区に所在することを確認できる。

公開情報 (CASILレポート) によれば、上饒市玉山区に鉄道輸送駅として玉山保障基地を有しており、「科技日報」(2011/12/13) によれば、同旅団は鉄道輸送大隊として発足している経緯もあることから、主にミサイルの輸送を担当していることが考えられる。

⑬ 装検連隊(96031部隊)

旧96173部隊 市

96031部隊

資料源: CASIレポート80頁

装検連隊司令部

29° 18'58"N 117° 16'07"E
(江西省景德镇市珠山区)

本部

Google Earth (Maxar Technologies) 2022/4/14

総合保障大隊

技術勤務大隊

装検第1所

×3

中継輸送中隊

警衛通信中隊

青陽

第61基地司令部

黄山

装検連隊 景德镇

樂平

金華

上饒

ロケット軍の装検(装備検査)連隊(96031部隊)は、公開情報(「某地区倉庫建設工程施工行入札公募終了の広告」『剣魚標訊』2020/01/21 <https://jianyu350.com>)から、江西省景德镇市珠山区腊里山路398号に所在することが確認できた。

公開情報(「解放軍報」2010/1/15)によれば、装備検査連隊は、地下格納庫において、ミサイルや各種装備品の保管・整備・点検を実施する部隊とも考えられる。具体的には、地下格納庫の各種武器装備品のメンテナンス、電気供給・照明・温度・湿度の管理や落雷防止・防火・静電気防止対策等の任務を担当していると推定される。

技術勤務連隊隷下部隊

技術勤務連隊
(96815部隊)
(前頁)

⑰ 無人機連隊(96816部隊)

旧96626部隊

96816部隊

56分隊
(電子対抗)

60分隊

62分隊
(捜査)

資料源：温約瑟「中国人民解放軍基地及び施設」

斜陽地上ステーション(62分隊)

33° 46'42"N
120° 31'23"E

斜陽県

「TB-001」



出典：統幕発表資料 2024/7/3

Google Earth
2021/2/4以降

崇明地上ステーション(60分隊)

31° 27'07"N 121° 53'48"E

諸元(四川騰盾科創公司H.P.)

・最大飛行重量：2,800kg

・最大航続距離：6,000km

無人機「TB-001」

約20m

約792m

崇明地上ステーション(56分隊)

31° 32'46"N 121° 56'04"E

無人機連隊司令部

Google Earth
(Maxar Technologies)
2022/8/23以降

29° 16'05"N 120° 20'59"E
(浙江省金華市東陽市)

TB-001 × 2

96816部隊基地が「聯合利剣-2024B」初登場



出典：『央視新聞Weibo』2024/10/14に筆者追記

無人機連隊(96816部隊)司令部は、公開情報(「43007工程EPC請負工事入札募集広告」『浙江省人民政府H.P.』2023/6/5

http://ztb.ggzy.zj.gov.cn/art/2023/6/5/art_1229690341_213728.html)から、浙江省東陽市城東街道東嵎路70号に所在することを確認できる。

その基地では、無人機「TB-001」×2機を確認できることから、同連隊は「TB-001」を運用しているとみられる。公開情報(「NIDSコメンタリー」第239号2022年10月4日)によれば、情報収集・警戒監視・偵察、ターゲティングのほか、攻撃ターゲットの撮影やその位置情報のリアルタイム伝送、弾道ミサイル着弾のダメージ評価等の任務を担っている可能性が考えられる。「聯合利剣-2024B」(2024/10/14)演習への参加が確認された。